

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400247		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム伊東南町(1階ユニット)		
所在地	静岡県伊東市南町1-4-12		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiv.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kanistru6&jiyosyoCd=2290400247-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で一番のグループホームを目指すをモットーに、グループホームの特性を活かし、小規模だからこそ出来るケアを実践している。自立支援ケアをオープン以来取り組み、イライラ・うとうと・ボーっとする落ち着かないといった症状の改善、減薬等症状の改善のあった方が、18名中17名に見られました。コロナウイルスの感染拡大により、ご利用者様が望むような外出支援は実施できてはおりませんが、室内での流しそうめん、運動会など、職員で知恵を絞りながら今できる、今しかできないケアを実施しています。体調面に関しまして、1日1500ccを目標値として水分摂取量を実施し、体調の改善に努め

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

水分・排泄・運動を重点的に取組むことで、認知症の症状を維持・改善へと促す自立支援を進め、今ではすっかり事業所のオペレーションに根付いています。毎朝の散歩量が運動に近い人もいたり、4種類必要だった下剤がゼロといった向上例のほか、全体に日中の覚醒時間が増えフロアの活気も増えています。法人には全国に280余のグループホームがあり、当事業所は「静岡第1エリア」に所属、エリア内の学習会や情報交換とともに「ミニイベントを他事業所の協力を得て実施する」事が試験的に始まり、他事業所の職員がテキ屋に扮して「おでん」「たこ焼き」「ラーメン」「クレープ」を振る舞ってくださった笑顔いっぱいの日もありました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念を復唱し、出勤者はミニホワイトボードに当日の理念に基づいた行動指針を記入している。夕礼の際には、行動指針が一日取れたかの確認を実施している。	入職時には法人と第一エリア双方で研修を実施しており、その中で職員は理念の意味、重要性を学んでいます。また日々の業務において「(理念に基づき)自分が今日おこなう」ことを表明、その日のうちに振り返ることを繰り返しておこなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、積極的な関りは難しい状況が続いているが、散歩の際に挨拶をしたり、近所の方とは会話を交わすなどして現状できる地域活動を実践している。	事業所の畑の隣りで耕作する人から苗を分けてもらえたり、収穫物のお裾分けといった小さな交流があります。開設からほどなくコロナ禍となりましたが、「かもめ新聞」を通じて知ってもらえており、散歩での挨拶も欠かしません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社内の実践報告会をZOOMを使用して開催している。その際、地域の事業所や住民にご案内をしているものの、現在は参加までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議自体の開催が難しくなっており、活動報告を対象者に郵送し、広く意見を求めている。いただいた意見に対しては、改善をするように努めている。	未だ一度も参会での運営推進会議は開催されていませんが、2ヶ月分の活動内容をまとめたうえで、運営推進会議を所内で実施したとして「近況報告」を作成、伊東市へ提出しています。	「近況報告」を作成していますが、状況をより判りやすく伝えることを期待します。 例. 事故報告は経過報告を入れたり、行事は写真を掲載する(いで湯っこ通信を添付)等
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出の際に市役所担当者と情報の交換を積極的に実践し、事業所の実情やケアサービスの取り組みをお伝えしている。	地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携は薄いものの、近くにある介護老人保健施設とは関係が出来ており、利用者の紹介・受け入れが頻繁にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の年間スケジュールに沿って身体拘束についての研修を実施し、知識の習得をしている。実践においても、身体拘束を実施していない。	3ヶ月毎に不適切ケアチェックシートで振り返りをおこない、身体拘束廃止委員会で具体的な改善協議につなげており、記録からは現場に根ざした内容を以て、向上への手がかりや機会が生れていることが見てとれます。	港町ということで、ややスピーチロック的な言い方も一部あるとのことでしたので、単に言葉でなく「相手の立場にたった言い方(プラス言葉)」ができたとき、記録していく事例集のようなものを作成することも一考ください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の年間スケジュールに沿って高齢者虐待についての研修を実施し、知識の習得をしている。定期的に動画の閲覧や虐待防止についてのチェックを実施し、本社とも情報を共有し、虐待が現場において実施されないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間スケジュールに沿って権利擁護についての研修を実施し、知識の習得をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やご家族様に対し、不安や疑問点についての説明を実施し、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、広く意見を求めている。意見についても、連絡先を設定し、電話でのご相談を受けている。頂いた意見に対しては、運営に反映している。	家族アンケートの回収率からは関係性がよいことが視えます。「いで湯っこ通信」では写真入りで本人の日常を伝え、通院介助で立ち寄ってもらえたときは家族と直接話し、介護計画書の見直しでは介護支援専門員が話を聴くようにしています。	今回、家族アンケートの記述が少なかったため、次回「書いてもらえる」よう、アンケートの渡し方などに工夫があることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2週間に1度の面談の機会を設け、各職員がどのように仕事に向き合っているか、その他会社の運営に関しても広く意見を述べられるようにする機会をもっており、頂いた意見に関しては本社に報告をし、改善に努めている。	月2回の面談のほか、キャリアパス制度に係る質問確認で職員一人ひとりの姿勢や考えが把握できることもあり、職員意見は概ね管理者の下に集まっていて、風通しのよい状況にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を制定し、職員の努力や実績、勤務状況を勘案し、向上心を持って仕事を取り組めるよう、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を整備し、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握するようにしている。施設外の研修については参加が出来ていないが、社内研修については、ZOOMや動画を活用し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模部会の副会長を努めており、ネットワークづくりに努めていますが、コロナの状況の為、開催が難しくなっている。日々の営業活動の際に、活動の内容についての情報共有をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用しながら、入居2週間は集中的に関わりを持ち、ご本人様が環境の変化を不安に思うのではなく、安心していただけるように関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、ご家族様との関わる時間を作らせていただき、困っていること、不安なこと、要望等を聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要をしているサービスについては、その都度ご家族様とも話し、柔軟に対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来ることを職員と一緒に見つけ、洗濯物をたたんだり、テーブルを拭いていただいたりし、職員は生活を共にするパートナーという認識で関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響もあり、面会も制限をしている状況にあるものの、外での短時間での面会やZOOMを使用するリモート面会、出来ることを実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のアセスメントにおいて、情報の共有をしていただき、今までの生活歴や関りのあった方々と関係が途切れないように、電話やZOOM等も活用しながら行っている。	農家だった人は水やりが日課です。また面会はズームも取り入れて「会える」を実現しています。現状を鑑みて8月までは面会をストップしていますが、通常は1日2組で午前と午後に分かれて家族を受け入れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活ペースを大切にしながら、レクリエーションを提供したり、散歩の声掛けも行い、孤立にならないように、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にも、電話を入れるなどして、本人や家族の状況を伺ったり、訪問をさせていただき、関係性が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中から、ご利用者様各人が思い描いている暮らし方や希望や意向を伺い、叶えられるように職員が情報を共有している。困難な場合は、ご本人様の立場に立ち、ニーズを考えている。	「気づきシート」と呼ぶ書面に利用者の発語や表情、様子などをそれぞれの居室担当者が主になって記録しており、ユニット会議の中でおこなうカンファレンスで内容を話し合っ、今後の取組みに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントを実施し、ご家族様にも協力をしていただきながら、生活歴の把握に努めている。入居後も、生活の継続が出来るように、入居前の情報を把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	画一的なケアの提供をしないように、日々の関りの中から、一人ひとりの生活のペースでホームでの生活が送れるように、現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に担当者会議を実施し、多角的な視点においてサービスの提供が出来るように、ご家族様、他業種とも情報の交換に努めている。	介護支援専門員は法人内の他事業所から週1日配属され、2つの内の一方のユニットの計画作成担当を兼務しており、介護支援専門員が勤務の日にカンファレンスをおこなうなど工夫して、情報が共有できるよう図っています。	介護計画書の中にある「担当者」欄には、他の人(地域資源)も入ることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子記録化され、日々の記録や実践は記録として記入している。バイタルや食事量も一覧として閲覧できるので、情報の共有をし、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じるニーズに対応ができるよう、近隣の事業所と日々の関りを大切にし、近隣のホームとも連携がとれるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、関係性が築けるように関わり合いを持っているものの、ご利用者様が力を発揮できるとまでは至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に対しては、入居の際に、本人様やご家族様に意向を伺い、希望に添えるようにしている。入居後においても、ご家族様に受診に対する情報の交換をし、主治医の変更等にも柔軟に対応するようにしている。	医療は希望のところをつかってもらえたらいいとし、在宅の頃からのかかりつけ医へと家族の付き添いで通う人が6名います。他の12名は月2回来所の協力医(訪問診療医)に変更しています。現在、協力医院は2箇所ですが、ゆくゆくは1箇所となる予定です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に対し、情報を交換するシートを活用し、日々の生活の中で変化があったことを共有し、指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期退院することを目指し、病院側の窓口となる相談員と連携している。定期的に病院を訪問し、情報の交換を行い、関係性が深くなるようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重篤化した場合や、終末期について、ご意向を伺うようにしている。入居後も意向に変化があるか、伺っている。	「重度化の指針」を備え、家族には契約時に「看取りはおこなわない」ことを説明しており、合意形成に至っています。入院を経て亡くなるケースが大半ですが、移設には事業所としてもスムーズに進むよう尽力しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルを作成し、入社してからいつでも見られるようにフロアに設置している。実践力という点は、今後の課題として捉えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、いつでも閲覧できる状態となっている。	年2回の法定訓練を滞りなく実施のうえ伊東市へ書面報告をおこない、新入職員は訓練のメンバーに加えるようシフトを調整しています。ローリングストックをプラス1として4日分の非常食を備え、発電機は月1回試運転をおこないチェックしています。	新規採用にあたっては、勤務初日に避難経路など確認するよう期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やマナーに対しての研修も実施し、言葉かけや対応に対して、失礼のないようにしている。	なかなか足が前にでず、職員が車いす移動をすることが間々あるケースでは、「あと1歩、2歩前に足がでたら自力方向できる」として、「この人ためになること」の視点で提案する職員が数名いることが心強く、管理者の支えとなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りから、夢や希望を聞き出すようにし、可能なことであれば、ホームで実現できるかスタッフ間で話し合いをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のニーズを大切に、希望が叶うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に沿った見だしなみをするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度以上は食事に対するレクリエーションを行い、利用者様が調理動作が出来なくなるようにしている。	以前には学校給食に従事していたという人が調理専任者としており、アレンジが上手で利用者は満足しています。ひな祭りのちらし寿司といった行事食のほか、レクを兼ねてホットプレートをつかって皆で手作りする事もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の適性の水分量の把握に努め、水分量が低下しないようにしている。食事量もご本人様が食べやすい形態も探るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後には必ず口腔ケアを実施し、清潔に保てるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用しながら、排泄のパターンを把握し、自立が目指せる方には自立での排泄を目指している。	リハパンから布パンツへといった向上例はないものの、日中の職員の声掛けで失禁が減り、それとともにパットの使用枚数が減った利用者や、「水分・運動・排泄」に特化する自立支援介護の取組みで4種類の下剤が必要なくなった人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分1500cc以上を目指し、提供のペースや味にも工夫をしている。薬に頼らない排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数などでニーズを訴えられる方が少ないが、週2回を最低ラインとして入浴している。希望が聞かれた場合には曜日や回数を変えらるなどして柔軟に対応している。	入浴は週2日を目安として実施するほか、毎朝陰部洗浄をおこなっています。おむつなどで痒みが生じる人のために始めたもので、「全員対象で毎日」とは頭が下がります。お湯は一人ひとり入れ替えており、浴剤選びは利用者の選択の機会となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせた生活が送れるように状況に応じて柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤担当者がおり、情報の交換を行っている。薬剤師も変更があった際には、積極的に情報をいただくことが出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを探り、張り合いとなる役割を継続的に提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に行けるようになり、近隣のゴミステーションまで、ゴミ出しにスタッフと一緒にいられるご利用者様もいる。	日常では畑の水やりやテラスでの外気浴があり、時折降りないドライブで桜の花見をしたり、ひとけのないダムに向いて新鮮な空気と緑を満喫するといった日も設けています。欲しい物は希望を聞いて廻り、職員が代わりに買ってくるという支援も併せておこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の理解のもと、ご本人様が現金を持っておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要望に合わせて対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と一緒に部屋作りをしたり、過ごしやすい環境になるように心がけている。	エアコンには自動クリーニングが付いています が、1ヶ月に1度程度はフィルターを取り外して洗浄しており、共用空間は転倒防止の配備とともに清潔が行き届いています。終日空気の入替えをおこない、エアコンの設置温度は数字ではなく利用者の手足を触って確認しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやいすの配置を変えることで、一人でのプライベート空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものなどを居室に持ってきていただけるように、ご家族様にも協力をいただいている。	「なるべく馴染みのものを」と入居時にお願いしていますが、大きなものは運び込むのが大変といった理由から持ち込まれていません。また家族がせっかく用意してくれた「家族写真」を何度も破ってしまう利用者もいて、居室は「すっきり」が定着しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを活かして、自立した生活が送れるようにしている。家具の配置にも注意し、転倒しない空間づくりに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400247		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム伊東南町(2階ユニット)		
所在地	静岡県伊東市南町1-4-12		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiv.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kanistru6&jiyosyoCd=2290400247-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和4年8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で一番のグループホームを目指すをモットーに、グループホームの特性を活かし、小規模だからこそ出来るケアを実践している。自立支援ケアをオープン以来取り組み、イライラ・うとうと・ボーっとする落ち着かないといった症状の改善、減薬等症状の改善のあった方が、18名中17名に見られました。コロナウイルスの感染拡大により、ご利用者様が望むような外出支援は実施できてはおりませんが、室内での流しそうめん、運動会など、職員で知恵を絞りながら今できる、今しかできないケアを実施しています。体調面に関しまして、1日1500ccを目標値として水分摂取量を実施し、体調の改善に努め

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

水分・排泄・運動を重点的に取組むことで、認知症の症状を維持・改善へと促す自立支援を進め、今ではすっかり事業所のオペレーションに根付いています。毎朝の散歩量が運動に近い人もいたり、4種類必要だった下剤がゼロといった向上例のほか、全体に日中の覚醒時間が増えフロアの活気も増えています。法人には全国に280余のグループホームがあり、当事業所は「静岡第1エリア」に所属、エリア内の学習会や情報交換とともに「ミニイベントを他事業所の協力を得て実施する」事が試験的に始まり、他事業所の職員がテキ屋に扮して「おでん」「たこ焼き」「ラーメン」「クレープ」を振る舞ってくださった笑顔いっぱいの日もありました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念を復唱し、出勤者はミニホワイトボードに当日の理念に基づいた行動指針を記入している。夕礼の際には、行動指針が一日取れたかの確認を実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、積極的な関りは難しい状況が続いているが、散歩の際に挨拶をしたり、近所の方とは会話を交わすなどして現状できる地域活動を実践している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社内の実践報告会をZOOMを使用して開催している。その際、地域の事業所や住民にご案内をしているものの、現在は参加までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議自体の開催が難しくなっており、活動報告を対象者に郵送し、広く意見を求めている。いただいた意見に対しては、改善をするように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の提出の際に市役所担当者と情報の交換を積極的に実践し、事業所の実情やケアサービスの取り組みをお伝えしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の年間スケジュールに沿って身体拘束についての研修を実施し、知識の習得をしている。実践においても、身体拘束を実施していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の年間スケジュールに沿って高齢者虐待についての研修を実施し、知識の習得をしている。定期的に動画の閲覧や虐待防止についてのチェックを実施し、本社とも情報を共有し、虐待が現場において実施されないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間スケジュールに沿って権利擁護についての研修を実施し、知識の習得をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やご家族様に対し、不安や疑問点についての説明を実施し、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、広く意見を求めている。意見についても、連絡先を設定し、電話でのご相談を受けている。頂いた意見に対しては、運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2週間に1度の面談の機会を設け、各職員がどのように仕事に向き合っているか、その他会社の運営に関しても広く意見を述べられるようにする機会をも受けており、頂いた意見に関しては本社に報告をし、改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を制定し、職員の努力や実績、勤務状況を勘案し、向上心を持って仕事を取り組めるよう、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を整備し、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握するようにしている。施設外の研修については参加が出来ていないが、社内研修については、ZOOMや動画を活用し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模部会の副会長を努めており、ネットワークづくりに努めていますが、コロナの状況の為、開催が難しくなっている。日々の営業活動の際に、活動の内容についての情報共有をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用しながら、入居2週間は集中的に関わりを持ち、ご本人様が環境の変化を不安に思うのではなく、安心していただけるように関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、ご家族様との関わる時間を作らせていただき、困っていること、不安なこと、要望等を聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要をしているサービスについては、その都度ご家族様とも話し、柔軟に対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来ることを職員は一緒に見つけ、洗濯物をたたんだり、床掃除、食事の準備等、職員は生活を共にするパートナーという認識で関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響もあり、面会も制限をしている状況にあるものの、外での短時間での面会やZOOMを使用するリモート面会、出来ることを実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のアセスメントにおいて、情報の共有をしていただき、今までの生活歴や関りのあった方々と関係が途切れないように、電話やZOOM等も活用しながら行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活ペースを大切にしながら、レクリエーションを提供したり、散歩の声掛けも行い、孤立にならないように、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にも、電話を入れるなどして、本人や家族の状況を伺ったり、訪問をさせていただき、関係性が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中から、ご利用者様各人が思い描いている暮らし方や希望や意向を伺い、叶えられるように職員が情報を共有している。困難な場合は、ご本人様の立場に立ち、ニーズを考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントを実施し、ご家族様にも協力をしていただきながら、生活歴の把握に努めている。入居後も、生活の継続が出来るように、入居前の情報を把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	画一的なケアの提供をしないように、日々の関りの中から、一人ひとりの生活のペースでホームでの生活が送れるように、現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に担当者会議を実施し、多角的な視点においてサービスの提供が出来るように、ご家族様、他業種とも情報の交換に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子記録化され、日々の記録や実践は記録として記入している。バイタルや食事量も一覧として閲覧できるので、情報の共有をし、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応ができるよう、近隣の事業所と日々の関りを大切にし、近隣のホームとも連携がとれるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、関係性が築けるように関わり合いを持っているものの、ご利用者様が力を発揮できるとまでは至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に対しては、入居の際に、本人様やご家族様に意向を伺い、希望に添えるようにしている。入居後においても、ご家族様に受診に対する情報の交換をし、主治医の変更等にも柔軟に対応するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に対し、情報を交換するシートを活用し、日々の生活の中で変化があったことを共有し、指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期退院することを目指し、病院側の窓口となる相談員と連携している。定期的に病院を訪問し、情報の交換を行い、関係性が深くなるようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重篤化した場合や、終末期について、ご意向を伺うようにしている。入居後も意向に変化があるか、伺っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルを作成し、入社してからいつでも見られるようにフロアに設置している。実践力という点は、今後の課題として捉えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、いつでも閲覧できる状態となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やマナーに対しての研修も実施し、言葉かけや対応に対して、失礼のないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りの中から、ご利用者様が思いや希望を聞き出せるようにしている。記録にもどのような内容か、残すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のニーズに沿った暮らしを提供できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれにも気を遣うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを黒板に書いてお伝えをするようにし、少しでも食事が待ち遠しくなる演出をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが不足してしまわないように、受診の際の採決結果にも着目し、不足している方には補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後には必ず口腔ケアを実施し、清潔に保てるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを探り、失敗をしながらも、自立に向けた取り組みをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分1500cc以上を目指し、提供のペースや味にも工夫をしている。薬に頼らない排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数などでニーズを訴えられる方が少ないが、週2回を最低ラインとして入浴している。希望が聞かれた場合には曜日や回数を変えるなどして柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせた生活が送れるように状況に応じて柔軟に対応している。夜間眠れない方がいる場合には、暖かい飲み物を提供するなどし、安心した夜間生活が送れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理薬剤師とも連携を図り、用法や副作用についても、確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を見つけ、日々その役悪が出来ているか、確認をするようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ状況下ではあるものの、日々の散歩には積極的に外に行くようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の理解のもと、ご本人様が現金を持っておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要望に合わせて対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と一緒に部屋作りをしたり、過ごしやすい環境になるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやいすの配置を変えることで、一人でのプライベート空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものなどを居室に持ってきていただけるように、ご家族様にも協力をしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを活かして、自立した生活が送れるようにしている。家具の配置にも注意し、転倒しない空間づくりに努めている。		